美濃市
子どもの読書活動推進計画

美濃市
平成２７年３月

1　計画策定の趣旨

生まれてきたばかりの赤ちゃんは、家族やまわりの人たちの語りかけによって、ことばに出会います。そして、自分への優しい語りかけや心地よさをもたらす子守唄を通して、ことばを覚えていきます。

まだ文字を読めない子どもは、絵本の読み聞かせをしてもらいます。絵と言葉の響き合いを感じることを通して、言葉と絵本の楽しさに出会います。そして、お気に入りの絵本を何度も繰り返し読んでもらうことを通して、言葉を体の中に少しずつ取り込んでいきます。

文字を覚え、文字を読めるようになった子どもも、周りの大人に読み聞かせをしてもらいます。そうすることで、本の楽しさや面白さばかりでなく、本が豊かで広い世界につながっていくことを感じ、読書の世界の扉を自分で開いていきます。

平成１３年に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、子どもの読書活動を、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とうたっています。

欠くことのできない読書活動を身に付けるためには、長い時間をかけて少しずつ育んでいくことが大切です。それは、小さな頃から本に親しみ、本が好きになり、進んで本を読む習慣を身に付けることでもあります。こうして身に付けた読書習慣は、子どもの生涯を通じた宝物となります。

子どもが読書習慣を身に付けるために、欠かせない読書環境づくりの３つの要素があります。

❶ 本 ---------- 子どもたちの身近に本があること。

❷ 場所と時間 -------- 図書館だけでなく、家庭にも、幼稚園・保育園や学校にも落ち着いて本を読むことができる場所と時間があること。

❸ 人 ---------- 子どもの身近にいる大人自身が読書に親しみ、子どもに本を手渡したり、子どもと一緒に本を読んだりして、楽しいひとときを分かち合うこと。

これまで、美濃市では各機関が子どもの読書活動をそれぞれ推進してきました。国や県における「第三次子どもの読書活動推進計画」の策定を受け、本市においても「美濃市子どもの読書活動推進計画」を策定することによって、各機関が情報を交流し合い、情報を共有するとともに一層連携を図り、子どもにとってより良い読書環境づくりを進めることとしました。

読書を通して、子ども同士、あるいは子どもと周囲の大人たちがさらに交流を深めることを願っています。

2 基本目標

本でつながる　本でひろがる

子どもたちに生涯を通じた宝物“読書習慣”をプレゼント!!

基本方針

1．子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが進んで読書に親しむためには、本との出会いが大切です。７か月児健康相談時に行う「はじめまして絵本」で絵本と出会った子どもが、その後、成長と共に発達段階に応じた本に出会い、楽しみ、読書が好きになるような機会を、家庭、幼稚園・保育園、学校、地域の様々な場所で提供します。

2．子どもが読書しやすい環境づくり

子どもが進んで読書するためには、子どもの身近に本があり、気軽に本を手に取れる環境が大切です。そのために、家庭、幼稚園・保育園、学校市図書館など、それぞれの場所で読書しやすい環境づくりに努めます。

3．子どもの読書活動に関する理解と意義の普及

子どもは、大人と一緒に読書を楽しんだり、読書をする大人の姿を見たりすることで、読書の意欲を一層高めていきます。子どもが進んで読書習慣を身に付けていくためには、特に、保護者、教員、保育士など子どもにとって身近な大人が読書活動に理解と関心をもつことが大切です。そのために、子どもの読書活動の意義や重要性について広く普及・啓発を図るよう努めます。

3 子どもの読書活動推進のための方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

1．子どもの読書活動の推進における家庭の役割

子どもの読書習慣は、何よりも家庭のなかで親と子のふれ合いを通して少しずつ身に付いていくものです。家庭に本があり、赤ちゃんの頃から親と子が一緒に読書を楽しみ、楽しさを共有することは、子どもの読書習慣を育む上で大きな力となります。また、家庭でゆったりと心穏やかに読書を楽しむ乳幼児期の読み聞かせは、親と子のふれあいの時間となり、良好な親子関係を築く一助にもなります。

2．家庭における取組

本との素敵な出会い　読み聞かせ

乳幼児期から絵本の読み聞かせを行うことが望まれます。読み聞かせは子どもとのコミュニケーションの一つの道具、子育てのツールの一つと考え、子どもと一緒に楽しむことが大切です。

本のあるくらし　身近なところに本がある環境

家族のみんなが集まるところ、子どもが手に取りやすい場所に本がある環境をつくることが大切です。図書館や幼稚園・保育園、地域の施設などから本を借りたり、行事や会に参加したりして、子どもの発達段階に合わせた本の選び方や楽しみ方について情報を得たりすることもできます。

家族で読むと楽しさアップ　家庭読書

保護者自身が読書を楽しみ、読書を生活に役立てる姿を見せることは、子どものよきお手本となり、子どもが読書好きになる効果的な方法です。テレビを消して、静かな空間を作り、家族で読書をしましょう。

２　美濃市図書館における子どもの読書活動の推進

１．子どもの読書活動の推進における美濃市図書館の役割

子どもにとって、図書館は、豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選び、読書の楽しみを知ることができる場所です。また、保護者にとっても、子どもに読ませたい本を選択したり、子どもの読書について司書に相談したりすることができる場所です。

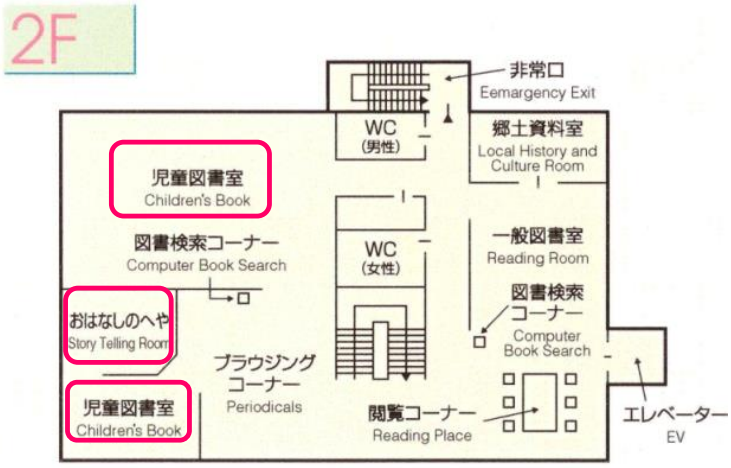
さらに、図書館では、子どもやその保護者を対象にした読み聞かせ会を実施し、地域における子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を果たしています。

２．美濃市図書館の取組

（１）子どもの利用のためのスペースやコーナー

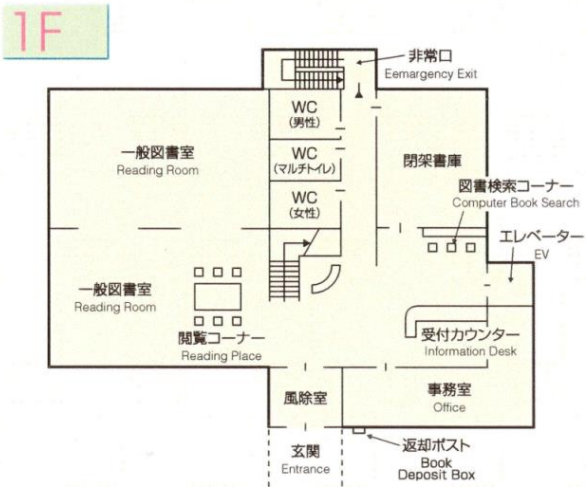
図書館が子どもにとって利用しやすい場所であるために、美濃市図書館では、２階に児童図書室、おはなしのへや（読み聞かせの部屋）を設けています。

また、子どもが主体的に読みたい本を選択するための有効な手段の一つとして図書検索コーナーを児童図書室近くに設置しています。



また、１階の階段付近にヤングアダルトコーナーを設け、児童書と一般書の中間に位置する本を並べています。

＊ヤングアダルト＊
13 才頃から 19 才頃の子どもから大人に成長する時期の子どもを指す。



（２）はじめまして絵本

７か月児健康相談に合わせ、絵本との出会いの大切さ、絵本の選び方や読み聞かせのポイントを保護者に説明しています。

メニュー
- ７か月の赤ちゃんの特徴
- 読み聞かせの本について（大きさや形、内容）
- 読み聞かせのポイント

（３）読み聞かせ

毎週土曜日と毎月第３火曜日に２階の「おはなしのへや」で読み聞かせを行っています。読み聞かせのポイントや本の選び方などを学ぶ「読み聞かせ講習会」を毎年実施しています。

- 毎週土曜日　午後２時～
  読み聞かせボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせ
- 毎月第３火曜日　午前 10 時 30 分～
  どんぐりスタッフによる読み聞かせ＆ちょっとした工作
  ＊ 美濃保育園育児支援センター

（４）こどもの読書週間の取組

毎年、「こどもの読書週間」の期間中に、こどもの日をテーマとした絵本を展示、紹介するなど、工夫をこらした展示をしています。

＊こどもの読書週間＊
1959 年(昭和 34 年)にスタート。2000 年の「子ども読書年」を機に、現在の４月 23 日～５月１２日の約３週間に期間を延長。４月から５月にかけては、「国際子どもの本の日(４月２日)」「サン・ジョルディの日(４月 23 日)」などの記念日・関連イベントも多く、また、2001 年 12 月に公布・施行の「子ども読書活動推進法」により４月 23 日が「子ども読書の日」となった影響もあって、「こどもの読書週間」は年々大きな盛りあがりをみせています。

（５）学校との連携

①学校図書館の支援

市内の学校図書館を多方面から支援しています。

- 学校への団体貸出
  調べ学習など必要に応じ、貸出依頼があった本を大量・長期に学校に貸し出しています。
- 移動図書館
  より多くの子どもに読書の機会を提供できるよう、美濃市図書館から離れた地域にある市内小学校に、年３回、一人当たり２冊を目安に、様々なジャンルの本を運び、貸し出す移動図書館を実施しています。
- 学校図書館活動の支援
  市図書館が校区にある小学校には、夏休み中の市図書館の利用を奨励するため、学校の要請により「市立図書館ポイントカード」の取組を行っています。

●学校司書研修への司書派遣

年５回程開催される市教育委員会主催の「学校司書研修」に市図書館の司書が参加し、情報交流をしたり、アドバイスをしたりしています。

②中学生のボランティア・中高生の職場体験の受入れ

中学生のボランティア活動や中高生を対象に図書館の仕事を体験する職場体験を受け入れています。

●中学生ボランティア

ボランティアを希望する中学生と活動内容について話し合います。１２月に活動する場合は、クリスマスに合わせ、ハンドベルによるクリスマスソングの演奏、クリスマス絵本の読み聞かせ等をします。♪

●職場体験

カウンターでの図書の貸出・返却作業、お薦めの本のポスター作成などを体験します。

３ 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進

１．子どもの読書活動の推進における幼稚園・保育園の役割

この時期は、子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。就学前に絵本の楽しさを体験することは、その後の読書活動を進めるためにも大切であり、この時期の子どもが長い時間を過ごす幼稚園・保育園は、重要な役割を担っています。

言葉を使ってコミュニケーションする力やものを考える力が育つこの時期の特性を活かし、自分の経験と結びつけ、自由に想像を巡らせ、絵本や物語の世界に浸ることができるようにします。

また、園での読書体験が家庭での読書に広がるよう、保護者に対し読み聞かせの大切さや意義を伝えることも大切な役割の一つです。

２．幼稚園・保育園における取組

（１）読み聞かせ

各園では、読書活動の時間を教育計画・保育計画に位置づけ、日常的に教諭・保育士による絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。

（２）本の貸出

各園では、子どもが絵本を選んで持ち帰り、家庭で読み聞かせをしてもらえるよう本の貸出を行っています。

（３）こんな取組もしています

①保護者への啓発

年度の初めに、読み聞かせの重要性について保護者に伝えています。

②研修会

子どもたちのために、どんな本を選んだらよいか、どんな本を読み聞かせしたらよいかといったことについて、講師を招き研修しています。

③未就園児を対象にした子育て支援での保護者への啓発

読み聞かせを行い、保護者に読み聞かせの大切さや意義を伝えています。また、子育て支援用の図書の貸出を行っている園もあります。

市内の幼稚園と保育園では、子育て支援として、就園前の乳幼児を対象に季節の行事、あそび、交流会、育児相談を実施しています。

- 美濃ふたば幼稚園 … ワイワイひろば
- 牧谷保育園 … ひよこくらぶ
- 美濃保育園 … パプちゃんクラブ・どんぐりクラブ
- かえで保育園 … こえだちゃんくらぶ
- 松美保育園 … つぼみクレヨンクラブ
- 下牧保育園 … たんぽぽクラブ
- 清泰保育園 … みみちゃん会

④保護者の貸出ボランティア

貸出用の図書の整備や整理を保護者ボランティアが行っている園もあります。多くの本にふれることで、子どもにとってどんな本が良いのかを学ぶ場にもなっています。

4 小中学校における子どもの読書活動の推進

1．子どもの読書活動の推進における学校の役割

小学校・中学校は、子どもが生涯にわたる読書習慣を身につける大切な時期であり、子どもの読書活動を推進する大きな役割を担っています。子どもは様々な本を読むことによって、言葉や文字を学び、感性を磨き、表現力や創造力を高めていきます。

学校においては、子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を身に付けることができるよう、環境を整えるとともに、子どもの読書活動を支援し、読書指導の充実を図っています。このことが、読書の量を増やすことのみならず、読書の質を高めることにつながっています。

2．学校における取組

朝読書や全校一斉読書など、各学校の特色や地域、子どもの実態に即して様々な取り組みを行っています。

（１）学校全体で読書活動を推進する体制

学校図書館を活用した授業や日々の読書指導の充実を図っていくために、図書館担当者や学校司書だけでなく全ての教職員が連携し、学校全体で子どもの学習活動・読書活動を推進しています。

①図書館教育全体計画

学校の教育目標を具体化するための一つの場として、図書館教育目標を掲げ、読書指導・利用指導について、発達段階に合わせた計画を作成しています。

②図書館利用指導年間計画

各教科の学習、総合的な学習、特別活動のどの場面でどんな図書を利用して学習を進めることができるかを明らかにし、計画的・体系的な読書活動を推進するための計画を作成しています。様々な文章や資料を読んだり、調べたりするなど多様な読書活動を展開できるよう、年中行事、季節との関連も考慮しています。

（２）読書習慣の確立・読書指導の充実

子どもが生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げることができるように、読書の機会の拡充とともに図書の紹介、読書経験の共有などによる様々な図書とのふれあいを大切にしています。

①読書に関する催しの実施

年に１，２回、図書委員会が中心となって、図書館祭りを開催します。多くの本、様々な分類の本を読むことができるように、子どもたちが工夫をこらした楽しい企画を考えて取り組みます。

●子どもたちによる図書館祭りの企画（例）

読書パズル … 学年ごとに設定した目標冊数を読むとパズルの１ピースをもらい、学級みんなでパズルを完成させる取組。

読書ビンゴ … 借りた本の分類番号と同じビンゴカードの数字に押してもらい、ビンゴになったらしおりがもらえるという取組。

読み聞かせ … 委員会の児童が、全校集会において全校に向けた読み聞かせをしたり、図書室において「読み聞かせ会」を開催したりする取組。

②推薦図書

読書の幅が広がることを願い、各学校で学習内容や発達段階に合わせ、自校の子どもにこれだけはぜひ読み切ってほしいと思う本を選定しています。図書館に「すいせん図書コーナー」をつくったり、「すいせん図書カード」を配付して読んだ記録を残したりして、全員が読み切ることができるように配慮しています。

③おすすめの本の紹介

委員会の子どもや教職員がすすめる本の紹介コーナーをつくり、紹介カードと本を展示しています。子どもが様々な分類の本に興味をもてるよう、教職員は物語以外の本も紹介するなど工夫しています。

④読書タイム(一斉読書)の実施

始業前の朝の活動時間や給食配膳中の時間に読書をしています。朝の活動時間に実施する読書タイムでは、委員会の子ども・教職員・ボランティアによる読み聞か

せを行ったり、異年齢による読み聞かせの交流を行ったりするなど工夫して取り組んでいます。

⑤読書の記録

小学校入学時に一人一冊読書に関するファイルを作成し、卒業するまでにどんな分類のどんな本を読んだかを記録しています。どの子も進んで読書に取り組めるよう、この記録を読書指導に活用しています。

（３）家庭・地域との連携による読書活動の推進

学校が家庭・地域と連携して取り組むことは、子どもが本に親しみ、進んで本を読む習慣を身に付ける上で、欠かすことができません。また身近な大人と一緒に読書を楽しんだり、読書を楽しむ大人の姿を見たりすることは、子どもの読書の意欲を一層高めます。以下に、その取組例を紹介します。

①保護者や地域住民による読み聞かせ

図書館まつりなどに保護者や地域の方に読み聞かせをしていただいています。

②子どもによる地域の方への読み聞かせ

- クラブ活動や委員会活動の時間、総合的な学習の時間に、地域にある老人ホームやデイサービスセンターなどを訪問し、子どもたちがお年寄りの方に読み聞かせをしています。
- 中学生が幼児の心身の発達について学ぶ家庭科の授業の一環として、市内の幼稚園や保育園を訪問し、絵本の読み聞かせをしています。

③親子読書(家庭読書)

子どもがいろいろな本に出会うきっかけや親子のふれあいの機会をつくることを目的として、長期の休みなどに、親子読書に取り組んでいる学校もあります。親子で同じ本を読んで感想を話し合ったり、違う本を読んでそれぞれ感想を伝え合ったりしています。

④家庭教育学級における研修

家庭教育学級において、読み聞かせの大切さやコツについて学びます。保護者自身が読み聞かせを聞くことによって、そのよさを実感したという声もあります。

家庭教育学級

家庭教育の知識、子どもの心の理解、親の役割、親としての接し方など、家庭教育に関する学習や意見交換を自主的・計画的・継続的に行い、家庭における教育力の向上を図ることを目的に園や学校で実施しています。

（４）学校図書館の機能強化

学校図書館は、以下のような「読書センター」としての機能と「学習・情報センター」としての機能を果たすことによって、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されています。

■読書センター … 豊かな心を育む自由な読書活動や読書指導の場

■学習・情報センター … 子どもの主体的な学習活動を支援する場

①学校図書館担当事務職員(いわゆる学校司書)の配置

学校図書館活動の充実を図るために、美濃市では学校図書館に関する業務を担う学校図書館担当事務職員(いわゆる学校司書)を各校に１名配置しています。学校司書は、図書館資料の管理、館内閲覧や館外貸出等の業務を担当するほか、子どもと本をつなぐ大切な役割を果たしています。

年に５回程の研修を実施し、子どもへの適切なアドバイスや魅力ある学校図書館づくりのレベルアップを図っています。

②図書資料の整備・充実

●図書資料の購入、除籍

平成５年に文部科学省が設定した「学校図書館図書標準」に即し、各学校では計画的な図書の整備に努めています。教職員や子どもの要望を取り入れながら、授業で活用する本、子どもが読みたい本、子どもに薦めたい本がある図書館を目指して、学校図書館として必要な図書資料の購入、適切な除籍を行っています。

●資料コーナー

子どもが図書館を利用して作った作品、パンフレット等調べ学習に活用できる資料を整理・保管し、授業に活用できる図書資料の整備に努めています。

●国立国会図書館・岐阜県図書館のサービスの利用

国立国会図書館の「学校図書館セット貸出」や岐阜県図書館の「セット文庫貸出」サービスを利用することによって、幅広い分野でのより多くの資料を子どもたちが手に取ることができます。

*国立国会図書館国際子ども図書館「学校図書館セット貸出」

１セット約 50 冊で、「国際理解」をテーマとし、世界の国・地域に関する資料、現地で親しまれている昔話や絵本、その絵本の原書などの資料で構成されています。

*岐阜県図書館「セット文庫貸出」

調べ学習・朝読書・お話会に活用できる約 850 セット(6000 冊)の図書の中から１校 12 セットを上限に貸出が行われています。

5 地域における子どもの読書活動の推進

子どもは、保護者だけでなく、読み聞かせをするボランティアなど様々な大人に接しながら、読書習慣を形成していきます。

子育て文庫の貸出

市内 10 箇所に子育て文庫を設置し、乳幼児の読み聞かせの本や育児に関する本の無料貸出を行っています。（詳しくは健康福祉課へ）

民間団体（ボランティア） 木風舎

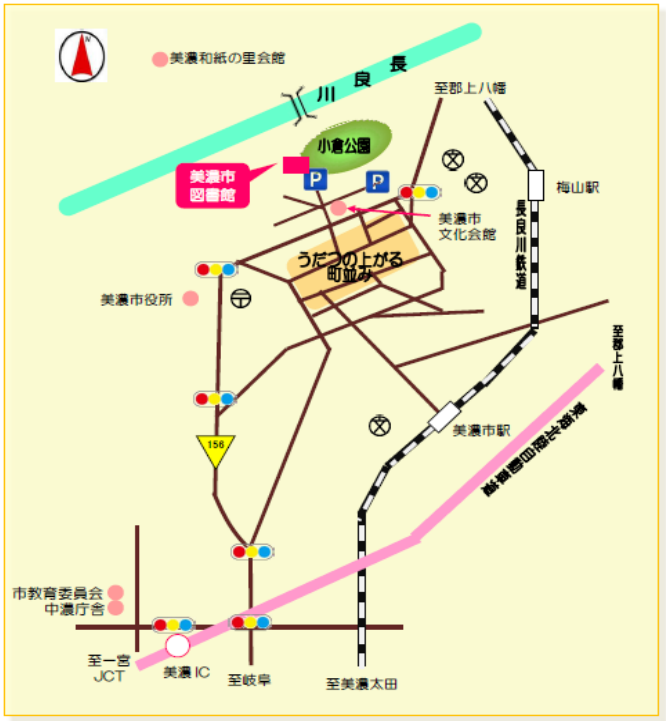
約 4,000 冊の蔵書があり、20 名程のメンバーがボランティアで本の貸出、市内外の園や学校での読み聞かせ活動、読み聞かせの意義や大切さを伝える活動、読み聞かせのポイント指導など、多岐にわたる活動を展開しています。

【開館時間】毎月第２、第４土曜日　午前 10 時から 12 時まで

図書にかかわる機関

美濃市図書館	美濃市（殿町）1571-2	☎35-2280
木風舎	美濃市藍川 21-4	
国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課　企画推進係	東京都台東区上野公園 12-49	☎03-3827-2065
岐阜県図書館企画課企画振興係	岐阜市宇佐４－２－１	☎058-275-5111

美濃市図書館



開館時間

【　平　日　】午前 10 時から午後 6 時
【土日・祝日】午前 10 時から午後 5 時
（6月から9月の土日は午後7時まで）

休館日

- 月曜日、祝祭日の翌日
  （その日が月曜日に当たるときは、その翌日）
- 図書整理日
  ・毎月第 4 金曜日
  ・12/29～翌年 1/3
  ※図書の特別整理期間、その他行事などにより、臨時休館になることがあります。